

令和 7 年度

さいたま市立高等看護学院運営委員会議事録

1. 開催日時 令和 7 年 7 月 29 日（火）午後 2 時 00 分～3 時 05 分
2. 開催場所 高等看護学院 情報処理室
3. 出席者 【委員】 8 人
小島 徹一郎委員長、齋藤 貴弘委員長職務代理者、阪 正晴委員、
小櫃 俊介委員、朝見 淳規委員、早坂 直子委員、原 朋子委員、
玉野 久美委員
【事務局】
松澤事務長 松本教務主任 河野教務主任 丹治教務主任、
菊田主査、清宮主任
欠席者 國澤 尚子委員
4. 議 題 報告事項
(1) 令和 6 年度学校評価について（概要説明）
(2) 令和 7 年度学院運営目標について
(3) 令和 7 年度学校の現状報告
1) 学生現状報告
2) 学校運営状況報告
3) その他
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴人 なし
7. 会議資料 (1) 令和 7 年度さいたま市立高等看護学院運営委員会次第
(2) さいたま市立高等看護学院運営委員会委員名簿
(3) さいたま市立高等看護学院運営委員会規程
(4) 令和 7 年度運営委員会資料
8. 問合せ先 保健衛生局 保健部 高等看護学院
電話 048-873-0281

1 開会	(司会進行・事務局 松澤)
2 委員長挨拶	(小島委員長)
3 委員紹介	(事務局 松澤)
4 議事	(事務局 松澤) くさいたま市情報公開例第 23 条に基づく公開、傍聴者の確認。 事務局より、傍聴者ない旨報告
5 報告 事項(1)説明 質疑	(早坂委員) 卒業生の評価を見ると、基礎分野の教育内容には満足していないという結果が出ています。ただ、学生にとっては既に知っている内容を繰り返しているように感じることもあるのかもしれません。 それよりも気になったのは、「わかりやすい授業が多いか」という項目の評価が 2.8 と低かった点です。教員としては、学生にとってわかりやすく、受けてよかったと思える授業を目指しているので、この評価は残念に感じます。具体的な原因や背景があれば教えてください。 (松本教務主任) 2.8 という評価には、授業内容だけでなく、学生の興味・関心、基礎知識、理解力など複数の要因が影響していると考えています。教員は講義形式をなるべく避け、演習やグループワークなどを取り入れるよう工夫していますが、学生によってはその形式が合わない場合もあります。 授業を楽しんでいる学生も多く、評価と実際の授業の印象にギャップがあることもあります。 (早坂委員) 学生が授業評価を提出した後、その内容が非常勤講師などにフィードバックされる仕組みはありますか。学生が「こういう点を改善してほしい」と思っていることが、講師に伝わっているかが気になります。 (松本教務主任) 授業評価は年度末に行われるため、その年の授業には反映しづらい面があります。ただし、授業中に学生や講師から意見が出た場合は、教員が間に入り、対応しています。

	例えば、板書が見づらい、声が聞き取りにくいといった即応性の必要な意見には教室の変更や設備の調整などで対応していますが、すべての講師に毎回フィードバックする体制にはなっていないのが現状です。 (早坂委員) 学生が授業に興味を持ち、内容を理解できるようにすることが、国家試験の合格率にもつながると思います。評価が低い項目については、教員側の努力目標として改善していく必要があると感じました。 (原委員) 学生生活への支援について、年3回定期面接を実施しているとのことですが、具体的に何月に行っているのでしょうか。また、その時期はどのように判断されていますか。 (松本教務主任) 昨年度までは、全学年で年3回の定期面接を実施していました。1年生はゴールデンウィーク後、2・3年生は進級後の4月、連休前に1回目を行い、2回目は9月、3回目は2月頃に実施していました。 加えて、成績や生活面で気になる学生には、定期面接以外にも個別に面談を行っていました。 今年度からはアドバイザー制度の運用を変更し、学年ごとに柔軟に対応しています。1年生については、夏休み前に個別面談を実施しており、1人あたり3～10分程度で状況を把握しています。5月末にはアドバイザー面談も行い、7月には夏休みの計画に合わせた面談も予定しています。 2年生は例年通り、進級後、夏休み後、必要に応じて追加面談を行っています。3年生は就職活動や実習に関連した面談が中心で、定期的というよりは個別対応が多くなっています。すでに複数回面談を行っている学生もいます。 3年生については、面接練習や相談が主な内容となっており、自主的に進められる学生には確認程度の対応にとどめています。 (原委員) 定期的な面談から、必要時の対応に切り替えたことで、支援が必要な学生には手厚く対応し、自立している学生には適度な関わりにするという方針に変えたということですね。
--	---

	(松本教務主任) その通りです。特に3年生は、従来の「年3回」という枠に収まらないケースが多かったため、学年ごとに目的に応じた対応を検討した結果、現在の形になりました。今年度が初の試みですので、今後評価を行っていく予定です。 (原委員) 学年ごとに目的が異なると思いますので、特に3年生では国家試験に向けた学習支援なども含めて、引き続きよろしくお願いします。 (小島委員長) 確認です。就職内定者について、全員がさいたま市内の病院に就職しているわけではないとの報告がありました。本学院は基本的に市内の病院への就職を目的としていると記憶していますが、市外の病院に就職した学生にはどのような事情があったのでしょうか。 (丹治教務主任) 昨年度の卒業生55名のうち、2名が市外の病院に就職しました。 1名は市外の病院で実習を行い、精神看護に強い関心を持ち、同病院での勤務を希望したためです。 もう1名は家庭環境の変化により親族の支援が得られなくなり、現在の居住地近くの病院に就職しました。 また、過去には県立の医療機関に就職した学生もいましたが、県職では配属先が選べず、結果として市外の医療機関に配属された事例もあります。 (小島委員長) 特別な理由がある場合は、例外的に市外へ就職することもあるのですね。 (松本教務主任) なお、現時点での3年生67名のうち、50名が就職内定を得ており、全員がさいたま市内の病院です。 残りの学生のうち2名は進学を希望しており、それ以外の学生も市内での就職を前提に活動を継続しています。
--	--

	容を提供しています。 (原委員) すでに予定人数に対して応募は集まっていますか。 (河野教務主任) どちらも定員に対しそれを上回る応募があり、盛況です。 (松本教務主任) 補足ですが、公開講座は今年で5年目になります。初年度に参加した中学生が、現在の1年生として入学している例もあります。すべてを追跡しているわけではありませんが、入学につながっているケースも確認されています。 (原委員) もう一点、入試方法を変更したという話がありましたが、書くことが苦手な学生が入学後に看護師としてやっていけるのか、少し心配です。看護師にはアセスメントを文章として記録に残す力が求められるため、文章力の強化が今後の課題になると思います。 (松本教務主任) 入試方法については、さまざまな意見がありました。書くことが苦手な学生にも受験の機会を広げるため、形式を見直しました。 ただし、入学後の学習支援は重要と考えており、1年生には4月から論理学の授業を導入し、教科書を使った読解や配布資料との組み合わせなど、文章力を育てる工夫を行っています。今後も継続して取り組んでいきます。
6. 閉会	(事務局 松澤) 以上